日本産樹木新報知（I）

Yasaka HAYASHI: Notes on Japanese trees. (I)

農林技官　林　彌　榮

日本は南北に細長く気候温暖で雨量多く植物がよく繁茂している。私達の主なる研究の対象である樹木の種類も非常に多い。今日迄にその樹木の分類も精細を極め，もう日本には新種，変種はほとんどあるまいと思われる程である。然しまだ余り植物学者並に植物採集者が足を踏み入れたことのない深山幽谷もあり，又多くの採集者が出入する山野でも案外見落しということあり，まだぽつぽつ未記載の新しい植物が見出される。筆者は 20 年余り山野を歩き廻り植物分類地理の研究を続けている。最近諸氏のすすめもあり，ここに気付いた新種，変種を記載発表する次第である。今後も機会を得てこの発表を続けて行きたいと思う。林学界，植物学界等にいささかでも貢献が出来たら幸いと思う。

ここに理解ある御援助と御教示を得た林業試験場長農学博士大政正隆氏，保護部長今関六也氏，造林部長石川健康氏，造林部育種科長栗田勳氏，直接種々御懇篤なる御教導を賜つた国立科学博物館植物課理学博士大井次三郎氏，同館同課奥山春季氏，その他直接間接に種々御支援を得た各位にあらためて深甚なる謝意を表する。

1. コマガタケシラベ（新称）

Abies Veitchii Lindley var. **komagatakensis** Hayashi, var. nov.

Strobilus cylindricus 2.4～4.0 cm longus 1.5～2.0 cm latus, colore "Deep mouse Gray" usque "Light Grape Green". Squama lunulata 4～7 mm longa 6～12 mm lata, Bractea valde exserta reflexa, obovoidea obcuneata serratidentata 7～12 mm longa 5～6 mm lata.

Nom. Jap. *Komagatake-Shirabe* (nov.)

Hab. in Hondo, prov. Shinano; Mt. Koma. (Kinji-Hachiya, et Noboru-Karizumi, Aug. 30, 1952; typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

常緑針葉喬木，1年生枝には褐色の密軟細毛を生ずる。葉は線形，先端は微凹形又は截形，基部は漸尖して吹盤状をなして枝条に附着する。上面は濃緑色，下面に一稜があり，その左右に一条づつの白色気孔線帯がある。長さ 1.5～1.8 糎，幅は2粍内外，樹脂道は2個，両側の葉肉に位している。毬果は円壔形，無梗で長さ 2.4～4.0 糎，幅は 1.5～2.0 糎あり，濃橙灰色乃至淡黄緑色をなす。種鱗は上部は半円形で円頭，柄部は楔形で短く長さ梗と共に 4～7 粍，幅 6～12 粍，外部に露出する部分は濃橙灰色乃至淡黄色，他は黄褐色で多少紫色乃至緑色を帯びている。

苞鱗は倒卵状楔形黄褐色で先端部緑紫色を帯び上方の縁部に微牙歯があり上端は稍々3岐し中肋の端は細く鋭く尖り長さ 7～12 粍，幅 5～6 粍許である。苞鱗は種鱗より長く種鱗の合せ目より著しく超出し外側に反転して先端は下向する。種子は倒卵状楔形黄褐色をなし長さ 6～7 粍，幅3粍許，翼は横幅6粍許，縦幅短い部分2粍，長い部3粍あり種子のほぼ半分である。

産地　長野県上伊那郡美和村駒ケ岳（蜂屋，苅住採集）

昭和 27 年8月 30 日甲斐駒ケ岳の海抜大凡 2400 米附近で試験場造林部在勤の蜂屋欣二，苅住昇の両氏が発見採集して来たもので，両氏の話によると胸高直径 10～15 cm，樹高 7～10m 位のものが数本あつたとの事である。この植物は原種シラベに比較して茎葉等には大した相違は認められないが，毬果が小形で（これは年や気象状態等によつても相違があるので決定的のものではないが）且つ毬果の色がシラベの黒褐色乃至暗青紫色を呈するに比しこれは濃橙灰色乃至淡黄緑色をなしシラベとアヲシラベ（var. olivacea Shirasawa）の中間的色彩をなしている。而して一番顕著な特徴は苞鱗が種鱗より長く，種鱗の合せ目より著しく超出し外側に反転して先端が下向していることである。（少しく苞鱗の超出しているのは時々見掛けるが）この状態は丁度北海道，樺太南部等に自生しているアオトドマツ（Abies Sachalinensis Fr. Schmidt var. Mayriana Miyabe et Kudo）に非常によく似ている。学名，和名共発見地駒ケ岳の名をとつたものである。

2.　ツノミノヒノキ（新称）

Chamaecyparis obtusa Endl. var. **Takeuchii** Hayashi, var. nov.

Folia squamiformia decussata, strobili 0.7～1 cm lati atrofusci, squamae 9～10, facie medio puncto elevato sursum aculeato-incurvo triangulato-aciculiformi usque ad 1～3 mm longo instructae, mediae 1～2 cum 2 connexis elongato-4-angulares, reliquiae 5-6-gonae, semina ovato-elliptica 2～3 mm longa utrinque alata.

Nom. Jap. *Tsunomi-no-Hinoki* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Shinano; Yogawa in Kiso. (Yasaka Hayashi, Oct. 22, 1951; typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

常緑針葉喬木，葉は緑色をなし小鱗片状にして交互対生し，上面下面に位する葉は短くして広卵状三角形，左右側に位するものは鎌身状舟形をしている。下面の葉間葉縁に僅かに白蠟粉が見られる。毬果は径 0.7～1.0 糎，黒褐色，種鱗は 9～10 個，中央1個乃至2個及びこれに接する左右2個はその端面がほぼ長方形，その他のものは五角形又は六角形で，中心の臍点上方に延び曲り三角状鍼形をなし，鈎状をなしその長さ 1～3 粍あり，全体の型がコンペイト状をなしている。種子は卵状楕円形 2～3 粍，左右に翅がある。

産地　長野県西筑摩郡読書村与川（筆者採集）

昭和 26 年秋長野営林局管内に出張の節，局造林課勤務の竹内技官から長野県西筑摩郡読書村与川の民有林にヒノキの毬果のコンペイト状に角のあるものがあるが何という種類でしよう

かとの問を受け興味を持つたが，その時は都合で帰京，日を置いて 10 月下旬与川に現物を見に行つた。問題の木は民家の裏山にあり，胸高直径 20 糎，樹高 13～14 米許りのものが2本ありよく観察出来た。この種類の最大の特徴は毬果の臍点に著しい突起があることで，一見コンペイト菓子を想像される。又成熟時の毬果の色が黒褐色で普通のヒノキより色が濃い。その外葉は繁く出て手ざわりに堅味あり，葉裏のY字型の白色気孔線が薄い。樹肌其の他では外見的には特に異点は認められなかつた。所有者の話によるとこの外民有林にはヒノキの全本数の1割位はあろうと思う。国有林には少いが点々自生がある。これは種子を採集乾燥する時ふるいに毬果の角がかかり残るので以前から地元の人は「コンペイトヒノキ」と称していたとの事である。そしてこの型の種子発芽率は普通の丸型毬果のものより低いそうである。私も今春播種したが余り多く発芽しなかつた。現地に丸，角両型の同時に発芽し，20～30 年経過したものが数本あつたが角型毬果のものの方が肥大並上長両成長共非常によかつた。この地以外のものでも普通の丸型のものより成長は非常によいとの事であつた。又材は丸型毬果の材より紅色味が強いそうである。葉の内部構造では顕著な変異は認められなかつた。初めて私にこの植物のあることを指示された竹内氏を記念し学名を Takeuchii とした。地元人がコンペイトヒノキと称しているが和名としては一寸突飛すぎるので毬果に著しい角のあることを表現する意味でツノミノヒノキとした。この角のあるなしの関係はアスナロとヒノキアスナロに似ている。

今夏林業試験場の柳沢技官は長野県北安曇郡高瀬川流域で，同林業試験場造林部の蜂屋技官は長野県西筑摩郡王滝村白川で採集された（非常に長い角が出ている。）王滝方面ではこの他の地でも点々見掛けるという。

3. サルクラハンノキ（新称）
Alnus hakkodensis Hayashi, sp. nov.

Frutices ca. 3 m. alti, ramuli cinerei, folia alterna decidua textu crassiuscula petiolata rotundata 1.5～4.0 cm longa 2.5～4.5 cm lata, apice emarginata, basi cordata, margine irregulariter dentata, subtus pallide viridia et eglutinosa, ad axillas nervorum parce brunneo-pilosa, nervis lateralibus paucis (4-5-jugis), nervulis irregulariter reticulatis, strobili 3～5, oblongo-ovati longe pedunculati 1.2～1.5 cm longi 8～10 mm lati (paullo minores quam forma typica), squamae cuneatae, nuculae obovatae membranaceo-alatae.

Nom. Jap. *Sarukura-Hannoki* (nov.)

Hab. in Hondo. Prov. Mutsu; Mt. Hakkoda. (Yasaka Hayashi, Aug. 7. 1951, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

落葉灌木，高さ3米許，小枝灰色，葉は互生で葉柄を有し，円形，凹頭をなし底部心臓形，葉縁には不斉歯牙があり，長さ 1.5～4.0 糎，巾 2.5～4.5 糎許である。葉質稍厚く，表面稍滑沢葉下面緑白色粘質は無い。脈腋に僅かに褐色髪毛があり，側脈少く僅かに 4～5 対，細脈は不斉小網眼をなしている。果毬は長楕円状卵形をなし，長梗 3～5 個づつ，長さ 1.2～1.5

糎，巾 0.8～1.0 糎にして比較的小形，果鱗楔形，小堅果は倒卵形にして膜質の翅がある。

産地　青森県八甲田山猿倉（筆者採集）

昭和 26 年8月7日青森県八甲田山中の猿倉温泉より赤倉岳に向う途中，筆者が発見採集したもので数本あつた。ミヤマハンノキに比し葉は円形で凹頭をなし，葉下面粘質なく，小形で側脈少く，細脈は不斉小網眼をなしている。果毬もミヤマハンノキの標準型のものよりはるかに小形である。一見したところではミヤマハンノキの感じはほとんどない。和名サルクラハンノキは採集地八甲田山の猿倉を記念してつけたもので「猿倉ハンノキ」の意である。葉形から見れば或はヤハズミヤハンノキ又はマルバミヤマハンノキの方が適切な名前かも知れない。

4.　ヒメサワシバ（新称）

Carpinus erosa Blume var. **microcarpa** Hayashi, var. nov.

Folia alterna petiolata elliptica, acuminata basi cordata, exilia duplicato-serrata, 6～9cm longa 3～5 cm lata, strobilus pendulus parvus 4～6 cm longus 1.0～1.5 cm latus, bracteola foliacea oodea serrata basi setasea 1.5 cm longa 5 mm lata.

Nom. Jap. *Hime-Sawashiba* (nov.)

Hab. in Ezo, Prov. Hiyama; Mt. Gamushi. (Yasaka-Hayashi, Aug. 8, 1952, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

落葉喬木，葉は有柄にして互生し楕円形，鋭尖頭，心臓底をなしている。辺縁に細少なる重鋸歯があり長 6～9 糎，幅 3～5 糎許，支脈は 20～24 対，脈上に毛茸がある。

果穂は柄を有し小枝端に下垂し小形長 4～6 糎，幅 1～1.5 糎許，小苞は葉状で卵形鋭頭，辺縁に鋸歯，基部に毛がある。長さ 1.5 糎，幅5粍許，小堅果は楕円形にして長さ 2～3 粍許である。

産地　北海道檜山郡厚沢部村俄虫（筆者採集）

昭和 27 年8月8日北海道檜山郡厚沢部村俄虫背山で筆者が採集したもので，胸高直径 10～18 糎，樹高 10～12 米許りのものが数本あつた。

原種サワシバより果穂，小苞，果実等が著しく小形で一見して区別がつく。葉の形状，大きさ等には著しい相違は認められない。和名ヒメサワシバは果穂，小苞，果実等の小さいことを表したものである。

5.　ハネナシヌルデ（新称）

Rhus javanica L. var. **toyohashiensis** Hayashi var. nov.

Folia imparipinnata, 25～35 cm longa, rhachi omnino exalata, foliola 3-6-juga, lateralia oblonga, terminalia ovato-oblonga, omnia acuminata, grosse serrata, basi cuneata, 5～11 cm longa 2.5～5.0cm lata, supra dense brunneo-puberula, subtus dense tomentosa, nervis lateralibus 20-32-jugis.

Nom. Jap. *Hanenashi-Nurude* (nov.)

Hab. in Hondo Prov. Mikawa; Toyohashi, (Yasaka Hayashi, Jun. 20, 1950, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

落葉灌木，葉は奇数羽状複葉をなし，長さ 25～35 cm 許りあり，小葉間の小軸に全く翼がない。小葉は三乃至六対，長楕円形，先端葉のみ卵状長楕円形，鋭尖頭，底部は楔形長さ 5～11 糎，巾 2.5～5.0 糎許り，側脈 20～32 対，辺縁に粗鋸歯があり，葉上面薄褐色短毛密生し，下面に薄褐色の絨毛を密布する。

産地　愛知県豊橋市牛川町

昭和 25 年 6 月 20 日筆者が愛知県豊橋旧市外牛川町にて採集したもので農家附近の堤やメダケ林内に十数本群生していた。この植物はただヌルデの小葉間の小軸に全く翼を欠くのみでなく，葉は細長く，側脈の数が 20～32 対あり非常に多いこと，小葉の先端葉は基部巾広く卵状長楕円形をなすこと，葉の毛がヌルデより褐色味をおびることが多い等の相違がある。未だ花や果実を見ないので変種とするが，花や実が得られれば種とする価値のあるものと思われる。和名ハネナシヌルデとは小葉間の小軸に全く翼のないことによる。

6. タカネソヨゴ（新称）

Ilex senjoensis Hayashi, sp. nov.

Fruticulus sempervirens, caules repentes et radicantes, rami ascendentes, folia alterna, longe petiolata, lanceolato-elliptica acuminata coriacea integra et paullo undulata laevia et nitida 2～8 cm longa 7～30 mm lata, nervis lateralibus 7～19.jugis, inconspicuis, flores dioici albi, flores feminei in foliorum superiorum axilla solitarii 3.5～4.5 cm longi, sepala petala et stamina 6, flores masculi 6-meri.

Nom. Jap. *Takane-Soyogo* (nov.)

Hab. in Hondo Prov. Shinano; Mt. Senjō. (Yasaka Hayashi, Jul. 22, 1951, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

常緑小灌木にして茎は地中を匍匐し，長きものは数尺に及び，茎の各所より根を出す。地表部の枝上は斜上生する。葉は硬質で稍々長い柄を有し互生し，披針状楕円形をなし鋭尖頭，鈍底，多く全辺で波状縁をなすが時に間隔ある微細鋸歯を生じ，無毛滑沢，長さ 2～8 糎，巾 0.7～3.0 糎，側脈は 7～19 対あり不明瞭である。雌雄異種にして花は白色，雌花は葉上腋に単出，長さ 3.5～4.5 cm あり，萼六裂，裂片は稍三角形，花瓣は六，広卵形，雄蕋は六本である。

産地　長野県上伊那郡美和村仙丈ケ岳，海抜大凡 1900 米（筆者採集）

昭和 26 年 7 月 22 日南アルプス仙丈ケ岳の西側より登山の節，海抜大凡 1900 米辺のコメツガ，ヒメバラモミ，ヒメマツハダ，テウセンゴヨウ等の森林下に群生しているのを筆者が発見採集したものである。ソヨゴに比し茎が地中を長く匍匐し，その各所より根を出し，地表部の枝は斜上生し，丁度ツルシキミの様な形態をなすこと，葉が披針状楕円形をなし細長く，時々間隔ある微細鋸歯を生ずること（徒長枝に於てこの傾向が強い）萼，花瓣，雄蕋共六の数な

ること（ソヨゴは四の数），海拔大凡 1900 米という高所に生じていること等の相違があり別種と思う。アカミノイヌツゲとソヨゴの交雑種とは思われない。和名タカネソヨゴは高嶺に生ずるソヨゴの意味である。

7. ウラジロクロヅル（新称）

Tripterygium Regelii Sprague et Takeda var. **hypoleucum** Hayashi, var. nov.

Folia alterna petiolata ovata acuminata, basi subrotundata, 5～15 cm longa 3～12 cm lata, supra viridia laevia, subtus hypoleuca.

Nom. Jap. *Urajiro-Kurozuru* (nov.)

Hab. in Hondo, Prov. Shimotsuke; Mt. Nasu (Yasaka-Hayashi, Jul. 25, 1952, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

落葉纏繞灌木にして茎は赤褐色，葉は有柄互生し，卵形にして鋭頭，円底，辺縁不斉鈍鋸歯をなし，長さ5～15糎，幅3～12糎，葉の上面は緑色無毛で下面は粉白色を呈し無毛，乾けば洋紙質と成る。頂生或は腋生の円錐花序をなして花瓣五，萼五，雄蕋五の白色小形花を攢着する。花梗は有毛，果穂につく多数の蒴果は淡緑色にして往々紅染し，三片の大翅を具え凹頭凹底長さ1糎，幅7粍許である。

産地　栃木県那須郡那須村那須山（筆者採集）

昭和 27 年8月 25 日栃木県那須郡那須山の八幡温泉附近で筆者の採集したものにより記載した。葉形，花実等は普通のクロヅルと大差はないが，茎が赤褐色をなすこと葉裏が粉白色をなすことが原種と違う主なる点である。この葉裏の粉白色をなすクロヅルは奥日光，藏王山等にもある。

和名ウラジロクロヅルは葉裏の白いクロヅルの意味である。

8. ノコギリバノサカキ（新称）

Sakakia ochnacea Nakai var. **serrata** Hayashi, var. nov.

Folia coriacea petiolata, oblongo-obovata vel lanceolata, acuminata cum acumine obtuso, basi acuta, obtuse serrata, laevia, 4～12 cm longa 1.5～5.0 cm lata.

Nom. Jap. *Nokogiriba-no-Sakaki* (nov.)

Hab. in Hond. Prov. Musashi; Meguro (Yasaka Hayashi, Jun. 5, 1951; typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

常緑大灌木，葉は革質にして有柄，長楕円状倒卵形或は披針形，鋭尖頭，鈍端，鋭脚をなし葉縁に鈍鋸歯を有し滑沢，長さ4～12糎，巾 1.5～5.0 糎許である。

産地　東京都目黒区，林業試験場内（筆者採集）

林業試験場内に古くから植栽されているカナダツガ，ヒマラヤシーダーの森林下に植栽されているサカキ及びヒサカキの樹叢の中に樹高4米許の木が1本ある。原種サカキの葉が全辺であるのに比し本樹は全葉に鈍鋸歯のあることが主なる相違点で，他はほとんど違わない。和名ノコギリバノサカキは鋸歯のあるサカキの意味である。

9. ケキブシ（新称）

Stachyurus praecox Sieb. et Zucc. var. **leucotrichus** Hayashi, var. nov.

Folia alterna petiolata ovata vel elliptica, caudato-acuminata, basi subrotundata, irregulariter serrulata, textu tenuia, penninervia, supra in nervis hirsuta, subtus in nervis petioloque pilis albidis crispulis dense obsita, fructus globosi polyspermi.

Nom. Jap. *Ke-Kibushi* (nov.)

Hav. in Hondo. Prov. Mutsu; Mt. Ōhata. (Yasaka Hayashi, Aug. 22, 1946; typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

落葉小灌木，葉は有柄，互生，卵形或は楕円形にして尾状鋭尖頭，鈍乃至稍円脚をなし，不斉細鋸歯があり，葉質稍々薄く羽状支脈を呈する。葉表面脈上には粗毛があり，葉柄上及び葉下面脈上には白色の縮綿毛を密生する。雌雄異種，雌木につく果実は球形にして果中に多くの種子を藏する。

産地　青森県下北郡大畑町（著者採集）

昭和 22 年8月 22 日，青森県下北郡大畑町，大畑ヒバ実験林内のヒバ（ヒノキアスナロ）林下で筆者が発見採集したもので，葉表面脈上に粗毛あり，葉柄上及び葉下面脈上に白色の縮綿毛を密生することがキブシ（キブシは全株無毛）と異る。下北半島方面のキブシは私の見た範囲内では皆この様に有毛のものである。又私はこれに近い型のものを北海道檜山郡俄虫及び山形，新潟の両県下でも採集した。和名ケキブシは毛のあるキブシの意味である。

10. ベニバナミネズハウ（新稱）

Loiseleuria procumbens Desv. form. **rubra** Hayashi, form. nov.

Folia late-linearia 4～7 mm longa 2～3 mm lata, flores praesertim calyces rubri quinquefidi.

Nom. Jap. *Benibana-Minezuhou* (nov.)

Hab. in Ezo, Prov. Ishikari; Mt. Taisetsu (Yasaka Hayashi, Aug. 15, 1952, typus in Herb. Gov. For. Exp. Sta.)

常緑匍臥の矮少灌木，葉は密生対生して極めて短い葉柄を具え，葉は広線形にして長さ 4～7 粍，幅 2～3 粍許である。萼，花梗及び花冠は紅色にして上向し，広鐘形，五尖裂，裂片は開出して星状を呈している。

産地　北海道上川郡上川村大雪山（筆者採集）

昭和 27 年8月 15 日北海道大雪山彙の白雲岳の沢で筆者の採集したもので，原種ミネズハウに比し，葉が稍々短く且つ幅広く萼，花梗，特に花冠があざやかな紅色をなすものである。

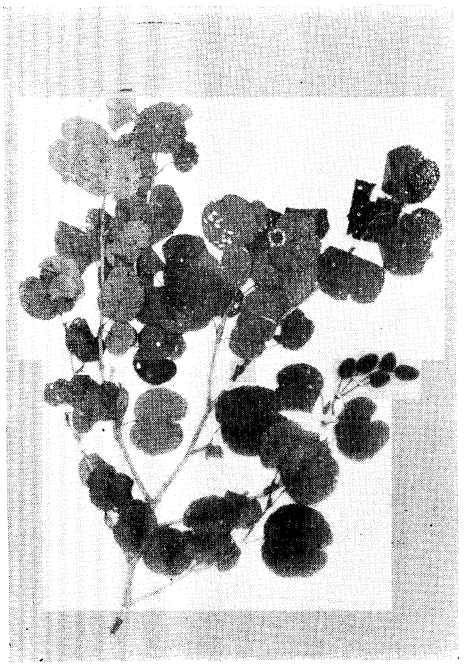
ミネズハウでも時に淡紅色を帯びるものは見ることがあるが，この様に白味を全く帯びない紅色のものは未だ見たことがない。

ベニバナミネズハウは紅花のミネズハウの意味である。

コマガタケシラベ
Abies Veitchii Lindley
var. komagatakensis Hayashi

ツノミノヒノキ
Chamaecyparis obtusa Endl.
var. Takeuchii Hayashi.

ツノミノヒノキ（向左）とヒノキ（向右）
Chamaecyparis obtusa Endl.
var. Takeuchii Hayashi.
Chamaecyparis obtusa Endl.



サルクラハンノキ
Alnus hakkodensis Hayashi

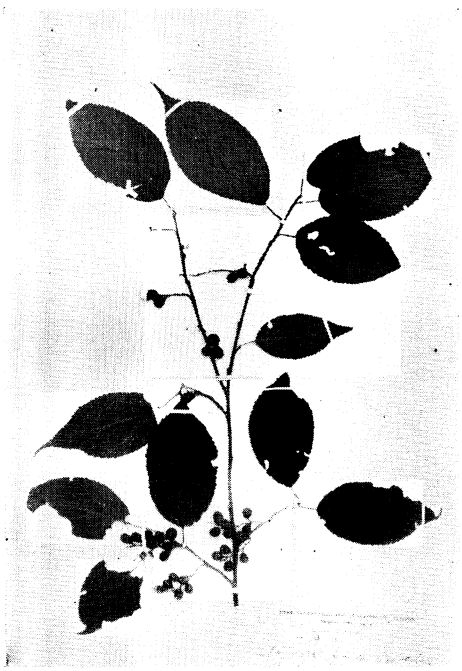
ヒメサワシバ
Carpinus erosa Blume
var. microcarpa Hayashi

ハネナシヌルデ
Rhus javanica L.
var. toyohashiensis Hayashi

タカネソヨゴ
Ilex senjoensis Hayashi

ウラジロクロヅル
Tripterygium Regelii Sprague et Takeda
var. hypoleucum Hayashi

ノコギリバノサカキ
Sakakia ochnacea Nakai
var. serrata Hayashi



ケ キ ブ シ
Stachyurus praecox Sieb. et Zucc.
var. leucotrichus Hayashi.

ベニバナミネズハウ
Loiseleuria procumbens Desv.
form. rubra Hayashi